

聖徳大学創立30周年・聖徳大学短期大学部創立55周年記念

聖徳大学収蔵名品展

ロートレック リトグラフ TOULOUSE-LAUTREC



54号室の女船客、船旅 1896年

ご あ い さ つ

聖徳学園は、1933(昭和8)年、東京市大森区(現 東京都大田区)に、聖徳家政学院と新井宿幼稚園を開設し、以来一貫して幼児教育、女性教育を中心とした教育に力を注いでまいりました。現在は、幼稚園から大学院に至るまで18の教育機関を擁する総合学園として展開しております。

1965(昭和40)年、千葉県松戸の地に聖徳学園短期大学(現 聖徳大学短期大学部)を、1990(平成2)年には聖徳大学をそれぞれ創設しました。本年(2020年)は、大学創立30周年、短期大学部創立55周年の節目にあたります。

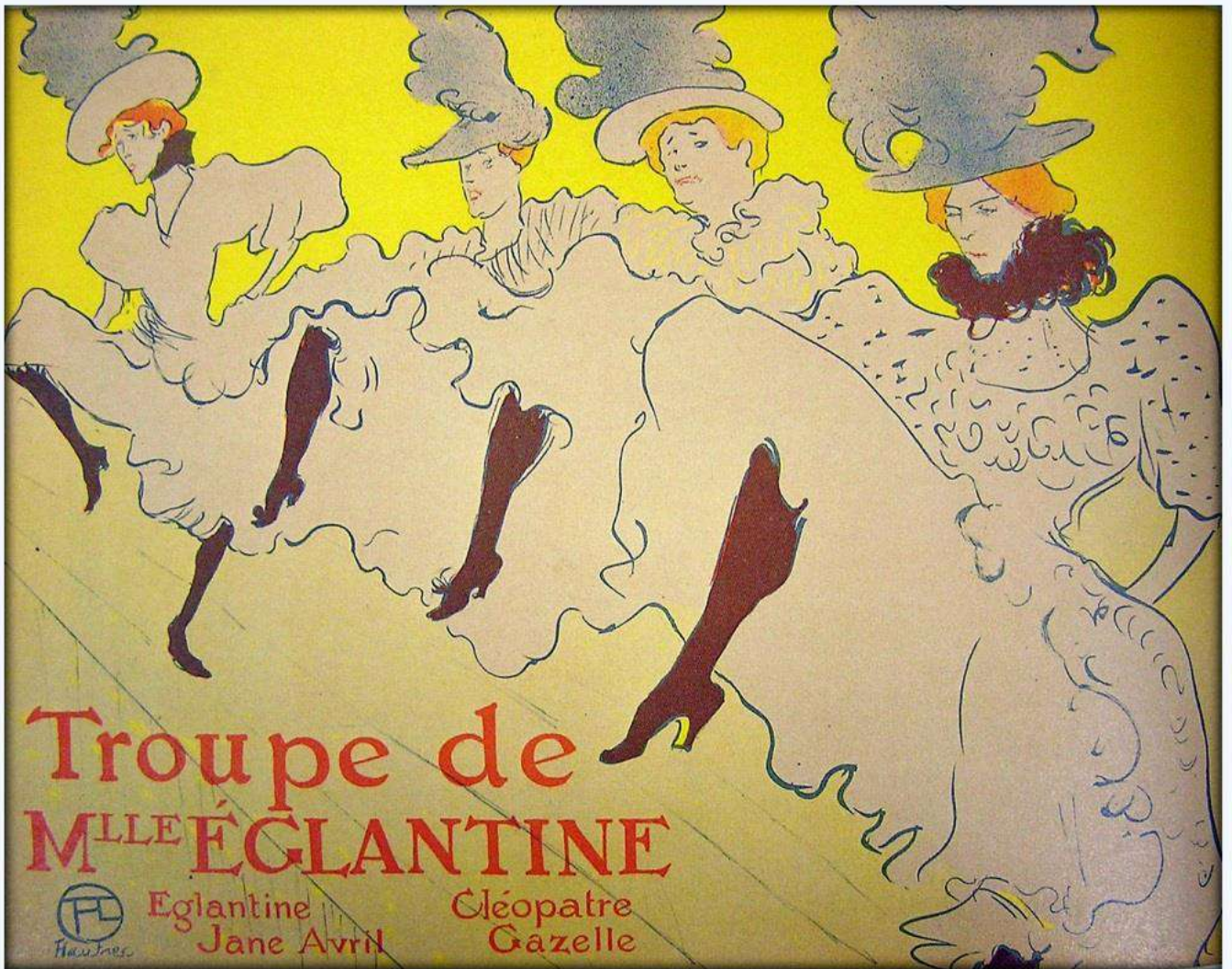
これらを記念して、本学園が収蔵する学術資料の中から、フランス後期印象派の代表的画家であるアンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック(1864～1901)のリトグラフ(石版画)を公開します。

ロートレックはフランスの名門伯爵家の長男として、南フランスのアルビに生まれました。13歳から14歳にかけて二度の転倒事故により両足を骨折し、それ以来下肢の成長が止まってしまう不幸に遭います。1882年、パリに出てコルモンの画塾に学び、そこでベルナールやゴッホと出会い、彼らの作風に強い影響を受けました。その2年後、モンマルトルにアトリエを構えます。この頃の画題はパリの風俗やそこに生きる人々の描写が多くなり、一般庶民や踊り手、歌手たちを独特の構図で描くようになります。一方、リトグラフ(石版画)の修練を積み重ねており、数多くのポスターも制作しています。その大胆な手法は20世紀のポスター芸術の出発点ともいわれています。

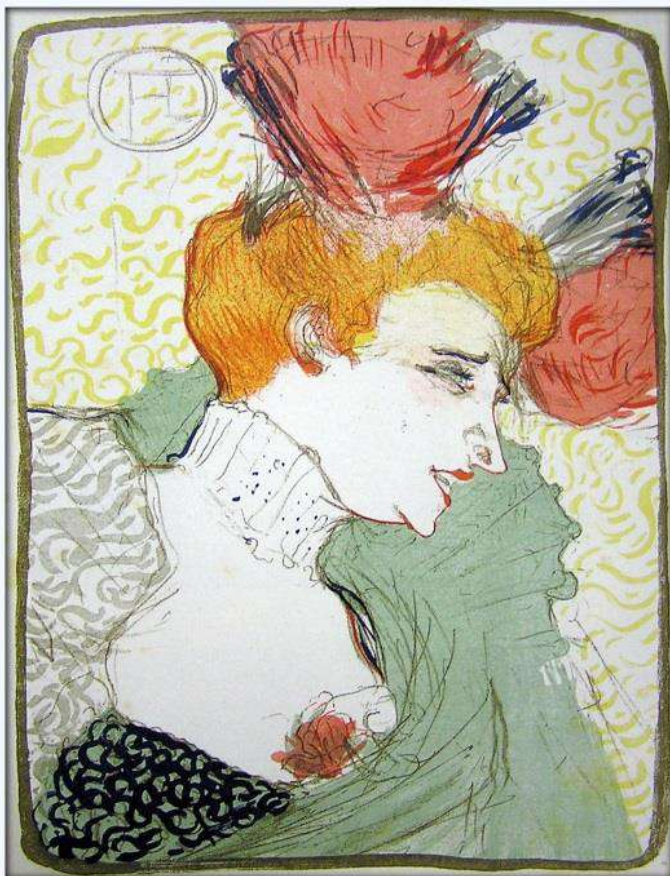
「小さいながらも、偉大なる芸術家」と称されるロートレックの作品の数々を心ゆくまでご鑑賞ください。

令和2年2月12日

学校法人東京聖徳学園理事長
聖徳大学長
聖徳大学短期大学部学長
学園長 川並 弘純



エグランティーン嬢一座 1896年



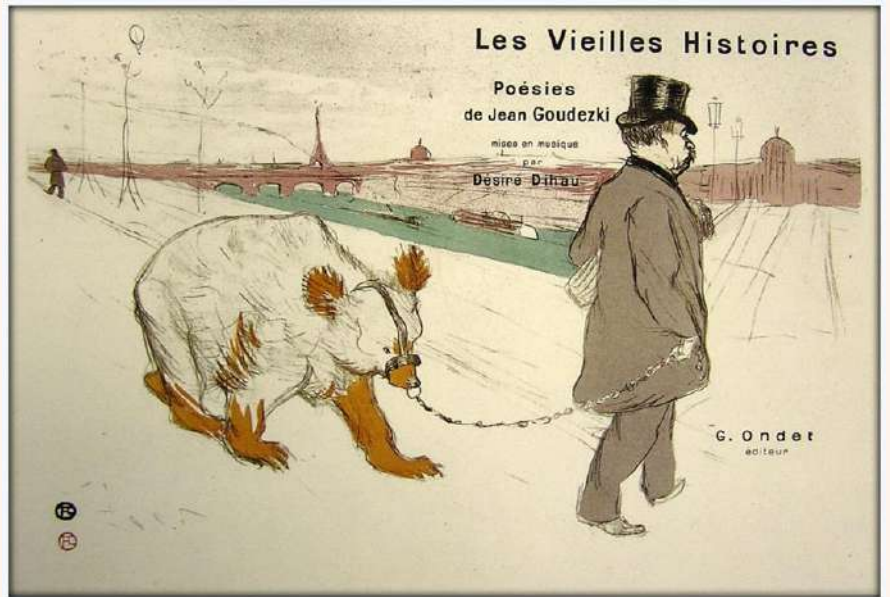
マルセル・ランデ嬢 胸像 1895年



金色の人面装飾のついた棧敷席 1893年



“ルヴュ・ブランシュ” 誌の表紙 1895年



“昔語り”の扉絵 1893年



“エスタンプ・オリジナル” 誌の表紙 1893年

小さいながらも、偉大なる芸術家

ロートレック Henri de Toulouse-Lautrec

(フランス 1864—1901)

アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック（1864～1901）は、1864年11月24日、フランスの名門の伯爵家の長男として南フランスのアルビで誕生した。その祖先は9世紀までさかのぼることができる。父は、アルフォンス・ド・トゥールーズ＝ロートレック伯爵、母はアデル（旧姓タピエ・ド・セレイラン）で、アルフォンスの従妹であった。

幼少期は「小さな宝石」と呼ばれて、可愛がられて育った。少年時代は、各地を転々としながら、父や叔父達の影響で、狩猟と馬を愛するようになる。パリでは、両親の友人である動物画家ルネ・プランストー

（1843～1914）から素描の手ほどきを受ける。しかし、ロートレックが13歳の時に左の大腿骨を、14歳の時に右の大腿骨を、それぞれ骨折したために、脚の発育が停止し、さらに当時は原因不明とされた先天性疾患を患う。成人した時の身長は152cm足らずであ

った。この頃にはすでにデッサンにすぐれた才能を見せており、作画に専念するようになる。

18歳の時にパリへ行き、当時名声を博していた巨匠の一人、レオン・ボナ（1833～1922）の門下に入る。ボナが1882年にアトリエを閉じると、今度はフェルナン・コルモン（1854～1924）のアトリエに入門。コルモンは、ロートレックに、画面構成、石膏デッサン、モデルを使ったデッサンを教えた。ロートレックはこのアトリエで、ベルナルルやゴッホと運命的な出会いをする。

その後ロートレックは、仲間の画学生とともに、パリの大衆的な社交場でもあったダンスホールに通うようになり、1884年にはモンマルトルに引っ越しをする。ダンスホールの経営者であるブリュアンは1886年に、彼が発行している新聞「ミルリトン」の挿絵をロートレックに依頼した。これが、挿絵画家としての初仕事となった。こうして生まれたのが、ロートレックの初期を代表する庶民的な作風であった。

ロートレック自身、身体障害者として差別を受けていたこともあり、ダンスホールの踊り子に深く共感し、当時開店したばかりの、ムーラン・ルージュや、ダンスホールなどで働いている女性たちの生活をよく観察していた。そして彼女らをテーマにした作品を次々に発表し、代表作「ムーラン・ルージュ」をはじめとしたポスターを芸術の域に高めた功績は特に大きい。

しかし、1899年には肉体、精神の両面で健康について状態が悪化し、入院生活を余儀なくされる。退院後は、子どもの頃からファンだった、パリのサーカスを主題とした作品を発表し、1901年9月9日、ボルドー近郊にある母の居城だった、マルロメの城館で家族に見守られながら、36年の短い生涯を閉じた。



会 期： 令和2年2月12日(水)～7月11日(土)

午前9時～午後5時（休館 毎日曜・祝日と学事日程による休業日）

会 場： 聖徳大学8号館1階 企画展示ギャラリー

JR常磐線、新京成線 松戸駅下車、東口より徒歩5分

（車での来場はご遠慮ください。）